

大津

大津市行動障害支援 資源および課題整理表

印刷日

2023/12/29

① システムと制度

Table with 5 main columns: 各支援機能, 就学前, 学齢期, 青年・成人期, 接続. Rows include 教育・日中活動, 相談支援, 生活支援, 余暇支援, 医療支援, 研修体系・研修制度.

自立支援協議会

② 現状

Table with 5 main columns: 各支援機能, 就学前, 学齢期, 青年・成人期, 接続. Rows include 教育・日中活動, 相談支援, 生活支援, 余暇支援, 医療支援, 地域開発SV, 研修体系・研修制度.

自立支援協議会 / 相談支援

③ 強み[上段]と課題[下段]

各支援機能		就学前	学齢期	青年・成人期	接続
教育 日中活動	療育		養護学校進路担当教諭を中心に、自立支援協議会参加等に積極的で、そのレベルではやりとりしやすい。	一定数の事業所で一定の行動障害支援の歴史がある。 いちばん星：自閉症・行動障害を主対象。ILガーデンや和邇の里や愛育苑で行動障害の方の受け止めを近年している 進路調整会議で 学卒後のケースについて、進路や事業所移行の調整を行っている。	策） 自立支援協議会 の部面が多く、 比較 的 活 発 な 支 援 専 門 員 が 臨 機 応 変 に 動 き な い。 比 較 的 関 係 機 関 を 集 め やす い 連 携 に た だ、 細 かな 支 援 の 中 身 を 共 有 は 不 充 分。 （一 部 に 専 門 機 関 が 入 っ て 共 有 が 進 ん で い る ケ ー ス あ り。） / 自 立 支 援 協 議 会 の 中 身
			普通学校から養護学校へのつなぎは？ 養護学校から生活介護への移行に関しては、支援計画シートを作成、アセスメントしてつなぐための指標作りをしたこと によって、利用者状況を共有しやすくなった。行動部会で ケース検討をしていることが強み。 学校の課題。授業内容、人材育成。	マンツーマン対応ケースの人員の確保。個人の力量に頼って いる部分が多い。経験の浅い職員に対して独自の工夫が必要 ／ 環境整理・構造化・個別スペース確保のためのスペース とお金の確保。／行動障害・自閉症等に合わせた活動設定が 不十分になりやすい。／ 支援者の専門性向上の体系（O JT・SV・研修）が弱い。／ 北大津養護の卒業生で生 活介護タイプの利用者の希望が増加傾向。特に行動障害タイ プの方の受け入れ先の調整の困難が予測される。	
相談支援	心理/発達 専門 相談 など		教育-福祉で連携し ながら予防的に関 わるケースあり。	教育-福祉の連携、および、進路指導や 通常授業等におけるアセスメント強化を しているケースがある。	かほんによるSV・アセスメント・機関連携支援がある。
	生活相談		一部のケースで専門相談と積極的に連携。		
	計画相談		比較的時間をかけて利用者のニーズを細やかに捉えて実施できている。		
	当事者や 家族の 組織・相談	「支える会」に幅広い加入者。 当事者組織・家族組織ともに一定数はある。 各組織の特徴や一覧が見えにくい。「行動障害」「知的重度」「自閉症」等を焦点にあてて保護者組織とつながる部分が弱い。 ペアレントメンターや、家庭訪問型など家族の「日常」を支える専門相談がない。当事者についても、一般相談の中で相談できるが、抱えきれていない。（相談員の 量・質の不足。）		まだ必要ケース全件分が終了していない。行動障害の方でもセルフプランの方もいる。（人員不足） 計画相談内容について、学校との連携が弱い。	
生活支援	施設		近江学園の大津圏域担当者との連携があり、近江学園利用者 について積極的に行動障害部会で取り上げ共有している。	ステップ広場ガルがセーフティネットとしての役割を明確 にしている。	比較 的 関 係 機 関 を 集 め やす い 連 携 に た だ、 細 かな 支 援 の 中 身 を 共 有 は 不 充 分。 （一 部 に 専 門 機 関 が 入 っ て 共 有 が 進 ん で い る ケ ー ス あ り。） / 自 立 支 援 協 議 会 の 中 身
	共同生活 援助		近江学園入所後に、進路以外は圏域関係者との連携が少な い。連携できるケースでも、元々自宅での過ごしに難しさが あったケースで、かつ、成人施設に空きが無く行動障害に対 応できるホームが無いので、連携が行き詰る。	伊香立の杜が入所的機能を果たしている。 つむぎの家やにじいろホームで、行動障害に対応。 次年度、しが夢翔会が多機能地域生活支援拠点として行動障 害の方を受け止める共同生活援助を開所予定。 大津市内でグループホームの数は増えているが、行動障害の 方に対応出来るホームは限られていて待機者も多い。	
	短期入所	圏域内に中学生に達しない子どもが利用できる短期入所がな い。 近江学園は空床型で、利用目的はレスパイトがほとんどに なっている。	枠・人材ともに不足しており、利用回数が限定的で、希望した日に利用できないことが多い。そのた め、予防的・積極的な取り組みとしての利用も難しい状況。 障害特性に合わせた環境設定が取りにくい中で、利用者間のトラブルが発生しやすい。	圏域の短期入所事業所で役割分担があり、SS連絡会等で比較的連携が取れている。 地域生活支援拠点事業で強度行動障害者短期入所受入特別支援事業が令和5年秋より開始	
	居宅介護	行動障害者に対応できる事業所が限られている。／ 人材育成に課題があり、レスパイト・余暇以外の積極的な家庭支援等での意味でサービスに入れるヘルパーが限 られる。／ 女性行動障害者（特に強度）が利用できるヘルプ事業所が少ない。			
	ナイトケア 緊急対応			地域生活支援拠点居宅確保事業、地域生活支援拠点支援員派 遣事業により既存の短期入所事業等で対応できない場合に場 や人員を提供した法人に委託料を支払う制度が開始。 短期入所の課題欄を参照	
	余暇支援 平日夕方 休日 長期休暇 など	個別	移動支援の車両送迎支援に置いて行動障害の方でドライブ支援が必要な方は基準を超えた時間数の支給決定が出る 通所・入所施設等との連携の中で、行動援護が広がったり継続できているケースがある。それを可能にする一定の専門性を持つ事業所がある。 行動援護従事者を対象にしたフォローアップ研修を自立支援協議会で定期的に開催している。 行動援護に実際に対応できる市内事業所が少ない。草津市や守山市の事業所を利用している方も多い、／ 車両送迎できる事業所が限られている。／ 外出時に本人が過ごす拠点となる場所の確保が困難。／ 家族のニーズと本人のニーズのずれがあることによる、ヘルプの中身を組み立てる際の苦労。／その他 「居宅介護」欄参照。		
集団	？	？	単価が安く支援が深まりにくい日中一時で重度児を受け入れ ている。／ 放課後等デイで重度児を受けるところが限られ ている。受けても環境設定・専門性が不足しやすい。／ 重度児を受け入れる事業所の専門性や姿勢を上げる取り組み が弱い。	平日夕方について、各法人・事業所内で対応できている部分 はある。 北部に日中一時事業所が少ない。 現在の単価では、人員確保・環境設定の両面において行動障 害者への対応が難しい。	
医療支援		南部を中心に総合病院が多く、比較的行动障害者を受け入れる工夫をしてもらえらる。 とはいったものの、行動障害者が受診できる病院・科は少ない。通院時に通院介助を利用されている方も多い。 制度的には「完全看護」であるはずの入院時に付き添いを求められることが多く、家族や関係支援者がフォローしている。入院時意思疎通支援派遣事業が制度として はあるが、利用要件及びヘルパーの確保が厳しく、利用者は限定的。また、身体介護ができない難しさがある。重度訪問介護は利用できるようになった。			
接続			「教育・日中活動」欄参照。 子どもの生活全体と進路を踏まえた上での、予防的な支援・ 指導の不足。 福祉との連携の中心は、高等部での実習と移行のみ。		
地域開発 SV			養護学校進路担当教諭や近江学園による自立支援協議会への 参加が積極的。 例えば住まいの場の確保など、課題整理は進んでいるが、それを実際に実行する部分に課題が大きい。 「心理/発達・専門相談など」欄参照。	行動障害部会でのケースを通じた支援観等の共有および課題 整理。 地域生活支援拠点運営会議で資源整備等の検討を行い、制度 化や施設整備の補助金がついている。 住まいの場の取りまとめで住まいのニーズ把握をしている。 かほんによるSVや連携促進。 しが夢翔会で強度行動障害者短期入所受入特別支援事業を秋 から実施。強度行動障害により地域での生活が困難となっ ている方について、集中的にアセスメントやコンサルティング を行う予定。 滋賀県ネットワークアドバイザー事業で各圏域の受託してい る生活支援センターにて強度行動障害を有する者のサービ ス等の利用調整支援および課題把握（主に医療機関や福祉サ ービスの利用調整が困難な強度行動障害を有する者に対し て、地域の相談支援従事者が各サービス等の利用調整を行う際 に、基幹相談支援センター等と連携し、専門的な指導・助言 および圏域における課題把握を行う。）を行う	

研修体系・研修制度		既に整備された研修の中で、基礎的なことを座学で学ぶことは可能。それとかほんのSVに連携がある。行動障害部会でのケース検討が、研修的機能を持っている部分もある。虐待防止センターが委託されており、広報啓発等に積極的。かほんの研修は、8割が行動障害で整ってきている。市単独の強度行動障害者養成研修を実施。	の割には、行政（施
		座学の中で発展的に学んでいく場がない。（積極的に県外も含めて探す必要がある+C60:J70。）教育と福祉が連携しながら学んでいく形が、実際のケース以外には少ない。	